

平成30年度進学資格試験の概要

ミクロ経済学

大学院上級レベルのミクロ経済学の理論についての試験とする。分野としては、需要・供給・市場均衡の理論、一般均衡理論、ゲーム理論とその応用、社会的選択理論等を含む。試験の内容は、理論を専門とする研究者だけではなく広く応用分野の研究者にとっても有用な基礎的なものとする。数学的知識としては、多変数関数の微分・積分、有限次元ユークリッド空間の位相、確率論等における入門的知識は前提とする。

出題の内容およびレベルを示す標準的な教科書は以下の通りである。

[教科書]

Microeconomic Theory, A.Mas-Colell, M. D. Whinston, and J. R. Green, Oxford.

受験者は、上記の教科書の基本的な内容についての設問に答えられるように準備することが要求されている。問題はすべて英語で出題される。また、英語で解答することが要求される設問もある。

出題範囲

試験は以下の2つの文献に基づいて出題される。

- [1] A. Mas-Colell, M. D. Whinston and J. R. Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995.
- [2] G.A. Jehle and P.J. Reny, *Advanced Microeconomic Theory*, Prentice Hall, 2011
- [3] M.J. Osborne and A. Rubinstein, *A Course in Game Theory*, MIT Press, 1994..

ただし、各文献において特に重視される箇所についての説明は以下の通りである。

文献[1]の以下のトピックは試験範囲とする[括弧内は文献の当該箇所]。

- ・意思決定理論 (第1章, 第6章 A,B,C)
- ・消費者理論 (第2章, 第3章 A,B,C,D,E,F,G)
- ・生産者理論 (第5章)
- ・市場均衡とパレート効率性 (第15章 A,B,C, 第16章)

- ・ 一般均衡分析 (第17章 A,B,C, 第19章 A,B,C,D,E)
- ・ ゲーム理論 (第7章, 第8章 A,B,C,D,E, 第9章A,B,C)
- ・ 不完全競争 (第12章 A,B,C,D, Appendix A)
- ・ 情報の経済学 (第13章 A, B,C,D, 第14章 A,B,C)

文献[2]の以下のトピックは試験範囲とする[括弧内は文献の当該箇所]。

- ・ オークション (第9章 9.1,9.2)

文献[3]からは、ゲーム理論の基礎的事項と経済分析への応用を中心に出题する。ゲームモデルを記述できる、基本的な解概念の定義と性質、基本定理の内容と証明のポイントを正確に理解している、標準的なモデルの計算ができる、などを重視する。出題範囲は、次の通りである[括弧内は文献の当該箇所]。Nash Equilibrium (2.1, 2.2, 2.3, 2.4, 2.6)、Mixed, Correlated, and Evolutionary Equilibrium (3.1, 3.2, 3.3)、Rationalizability and Iterated Elimination of Dominated Actions (4.1, 4.2)、Knowledge and Equilibrium (5.1, 5.2, 5.3, 5.4, 5.5)、Extensive Games with Perfect Information (6.1, 6.2, 6.3, 6.4, 6.5)。